AgileWorks R3

書類ファイル出力ガイド

R3.3 第 1 版(2026/07/15)

ATLED

目次／索引

1. 書類ファイル出力について 4
1.1. 書類ファイル出力とは 4
1.2. ファイル形式 5
2. 事前準備 6
2.1. 書類一覧ビューの設定 6
2.2. 書類の検索条件の設定 7
2.3. 書類ファイル出力の利用制限 9
外部接続制限とは 9
2.4. PC 上から実行するためのスクリプトの準備 9
2.5. 自動出力ステップを実行するための設定 10
2.6. クラウド版：出力ファイルのダウンロードと削除 11
3. ファイル出力の実行 12
3.1. 書類検索の結果からファイル出力 12
3.2. スクリプトによるファイル出力 13
3.3. 自動出力ステップによるファイル出力 16

◆ 改版履歴

版数	年月日	改版内容
第 1 版	2026 年 07 月 15 日	第 1 版作成

1. 書類ファイル出力について

この章では、AgileWorks の書類ファイル出力について説明します。

1.1. 書類ファイル出力とは

書類ファイル出力とは、AgileWorks で作成された書類の内容を一覧形式でファイルに出力する機能です。
一度に出力できる書類は 1 種類のフォームだけですが、出力する項目を自由に設定することができます。

ファイルへの出力方法は以下の 3 通りあり、それぞれ事前に必要な設定があります。

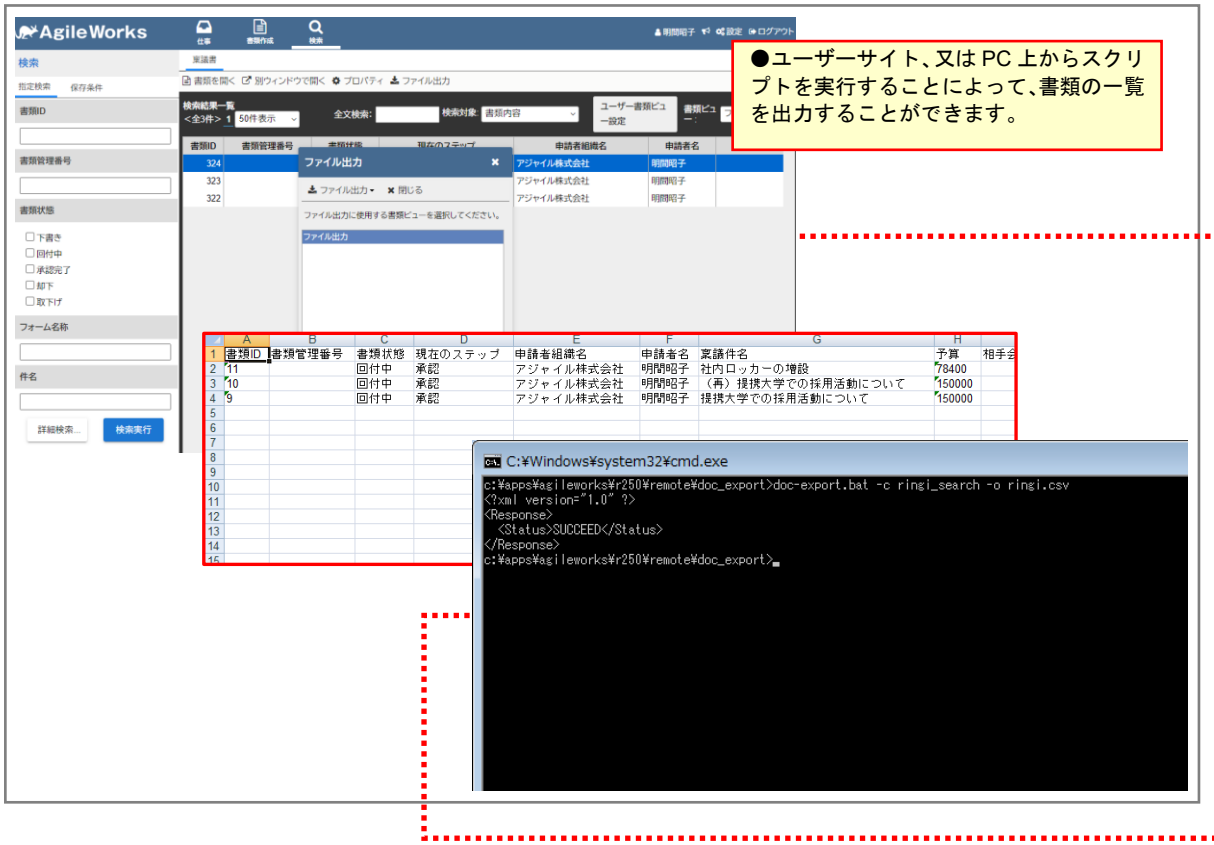
- ファイル出力(画面) - 書類検索の結果からファイル出力
  書類検索結果をファイル出力します。
- ファイル出力(バッチ) - スクリプトによるファイル出力
  AgileWorks が用意したスクリプトを任意の PC 上に配置し、
  スクリプトを実行することで書類データをファイル出力します。
- ファイル出力(自動出力ステップ) – 自動出力ステップによるファイル出力
  書類が回付ルールの自動出力ステップを通過したタイミングで、
  自動出力ステップに設定された書類ビューの該当データをファイル出力します。
  ※クラウド版の場合「AgileWorks データストレージ」機能にて出力ファイルをダウンロード、削除することができます。
  ファイル出力を実行する前に AgileWorks データストレージ機能にアクセスできるかどうか確認してください。

▼出力方法毎に必要な設定

出力方法	書類一覧ビュー	検索条件	外部接続制限	スクリプト準備	回付ルール設定
ファイル出力(画面)	○	△	△	×	×
ファイル出力(バッチ)	○	○	△	○	×
ファイル出力 （自動出力ステップ）	○	×	×	×	○

○=必須、△=任意、×=不要

▼出力イメージ



1.2. ファイル形式

書類一覧は以下の形式で出力されます。

項目	説明
拡張子	「csv」「xls」「xlsx」を選択します。xls は MicroSoft Office 2003 形式、xlsx は 2007 以降の形式です。選択方法は出力方法によって異なるため、詳細は各出力方法を参照してください。
文字コード	以下の画面にて、設定した文字コードで出力されます。 管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【書類・ワークフロー】→【ファイル出力】

2. 事前準備

この章では、書類ファイル出力の前に必要な設定を行います。

2.1. 書類一覧ビューの設定

書類データをファイル出力した際の項目を設定するために、【書類一覧ビュー】を設定します。

書類一覧ビューとは、フォーム単位で任意のフィールドを一覧に表示するビューです。
フォーム毎に複数の書類ビューを作成する事が可能でき、システム共通項目や件名項目なども使用できます。

以下、書類ファイル出力を利用するために必要な書類一覧ビューの設定です。

▼書類一覧ビューに必要な設定

項目	必須	説明
コード	○	ー
名称	○	ー
利用箇所	○	「ファイル出力」又は「画面・ファイル」を指定します。
表明細	△	表明細のフィールドを出力したい場合は、対象の表明細を指定します。
一覧表示項目	○	出力する項目を指定します。 ファイルには、ここで指定した順番で出力されます。

▼書類ビューは管理サイト【フォーム管理】→【フォーム設定】から対象フォームの【フォーム設定】ウィンドウを開き【書類ビュー】タブから、またはユーザーサイトの【検索】から作成します。



書類一覧ビューの詳細は別紙「Aw01-主要機能ダイジェスト」の「書類ビュー（一覧ビュー）」「ユーザー書類ビュー」を参照ください。

2.2. 書類の検索条件の設定

ファイル出力する書類を検索するために【書類の検索条件】設定します。
書類検索の結果からファイル出力する場合は必須な設定ではありませんが､設定しておくことで同じような条件で検索を行う際に便利になります。

書類の検索条件を保存するフォルダは以下の２種類に分けられます。
検索条件が保存されているフォルダの種類によって、利用できる書類ファイル出力の出力方法が異なります。

▼書類の検索条件の種類

フォルダの種類	説明	ファイル出力(画面)	ファイル出力(バッチ)
公開検索条件	ユーザーサイトでの書類検索に利用します。	○	×
外部公開条件	ファイル出力(バッチ)専用の検索条件です。 ユーザーサイトでは利用できません。	×	○

以下、書類ファイル出力を利用するために必要な検索条件の設定です。

▼検索条件に必要な設定

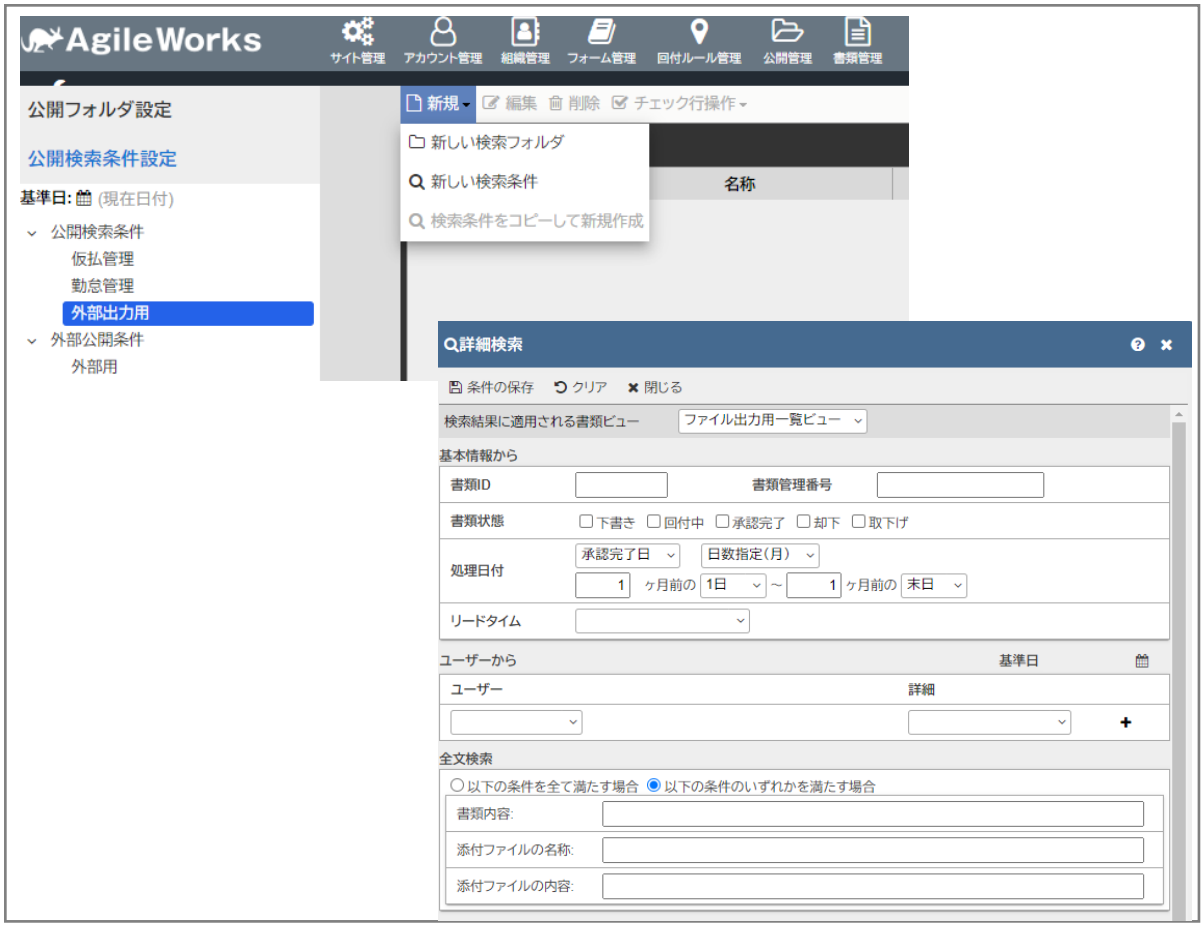
項目	必須	説明
コード	△	ファイル出力(バッチ)を利用する場合は必須です。
名称	○	ー
検索結果に適用される書類ビュー	△	指定しない場合、ファイル出力時に指定する必要があります。
フォーム	△	指定しない場合、ファイル出力時に指定する必要があります。

その他、検索する上での条件は任意です。

▼検索条件で利用できる主な条件

項目	説明
書類状態	以下の書類状態を指定できます。 「下書、回付中、承認完了、却下、取下げ」
処理日付	申請日、承認完了日、最終更新日などの日付を絶対、又は相対的に指定できます。
ユーザー	「ログインしているユーザーが承認した」などの条件を指定できます。
書類内容	指定したフォーム上のフィールド値を条件に指定できます。

▼書類の検索条件は管理サイト【公開管理】→【公開検索条件設定】から設定します。



公開検索条件の詳細は別紙「Aw01-主要機能ダイジェスト」の「検索」を参照ください。

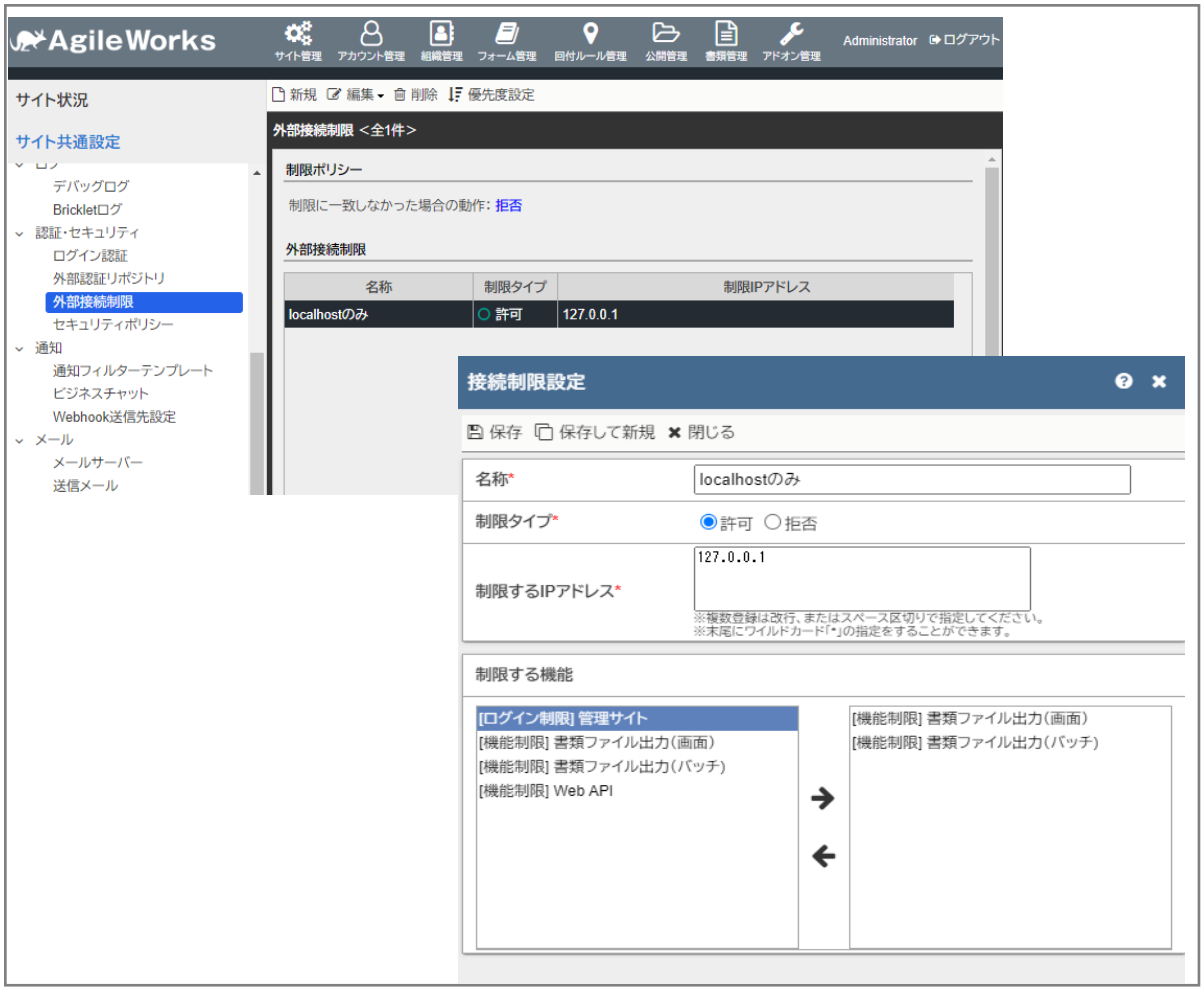
2.3.　書類ファイル出力の利用制限

書類ファイル出力を特定のユーザー以外には利用させたくない場合は、外部接続制限機能を利用します。

外部接続制限とは

特定の IP アドレス毎に一部の操作を許可、又は禁止する機能です。
書類ファイル出力を「管理サイトからのダウンロード」と「スクリプト実行によるダウンロード」毎に制限することができます。

▼管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【外部接続制限】から設定します。



外部接続制限の詳細は別紙「Aw01-主要機能ダイジェスト」の「外部接続制限」を参照ください。

2.4.　PC 上から実行するためのスクリプトの準備

スクリプトの準備は「スクリプトによるファイル出力」を参照ください。

2.5.　自動出力ステップを実行するための設定

自動出力ステップを利用してファイルを出力する場合は、下記の設定が必要です。

▼書類データ出力先設定
管理サイト【サイト管理】→【サイト共通設定】→【書類データ出力先設定】から設定します。



出力先や出力するファイル名称には下記の変数を設定できます。
▼変数一覧

項目	説明
${DocId}	書類 ID
${TimeStamp}	タイムスタンプ（yyyymmddhhmmss）　例：20181101091520

▼書類一覧ビューの設定
「書類一覧ビューの設定」を参照ください。

▼自動出力ステップの設定
FlowEditor で自動出力ステップを配置して、出力する情報を設定します。



▼自動出力ステップの設定項目

項目	説明
書類データ出力設定	書類データ出力先設定画面で登録された出力先を選択します。
書類ビュー	出力形式を「CSV」にした書類データ出力先設定を選択した場合は、利用箇所を「ファイル出力」又は「ファイル・画面」にした書類ビューを選択可能です。 出力形式を「データベース」にした書類データ出力先設定を選択した場合は、利用箇所を「DB書込」にした書類ビューを選択可能です。 出力形式を「PDF」「添付ファイル」にした書類データ出力先設定を選択した場合は、書類ビューを選択不可（グレーアウト）となります。
再出力設定	エラーが発生した場合に再出力するかどうかを設定します。

2.6.　クラウド版：出力ファイルのダウンロードと削除

クラウド版にて出力したファイルは「AgileWorks データストレージ」機能にてダウンロード、削除を行います。
ファイル出力の設定前に「AgileWorks データストレージ」機能にログインし、操作が行えるかどうか確認してください。

「AgileWorks データストレージ」機能の利用方法については「AgileWorks データストレージ操作マニュアル」をご確認ください。



3. ファイル出力の実行

この章では、実際に書類の一覧をファイルに出力する手順を以下の順番で説明します。

- ファイル出力(画面) – 書類検索の結果からファイル出力
- ファイル出力(バッチ) – スクリプトによるファイル出力

3.1. 書類検索の結果からファイル出力

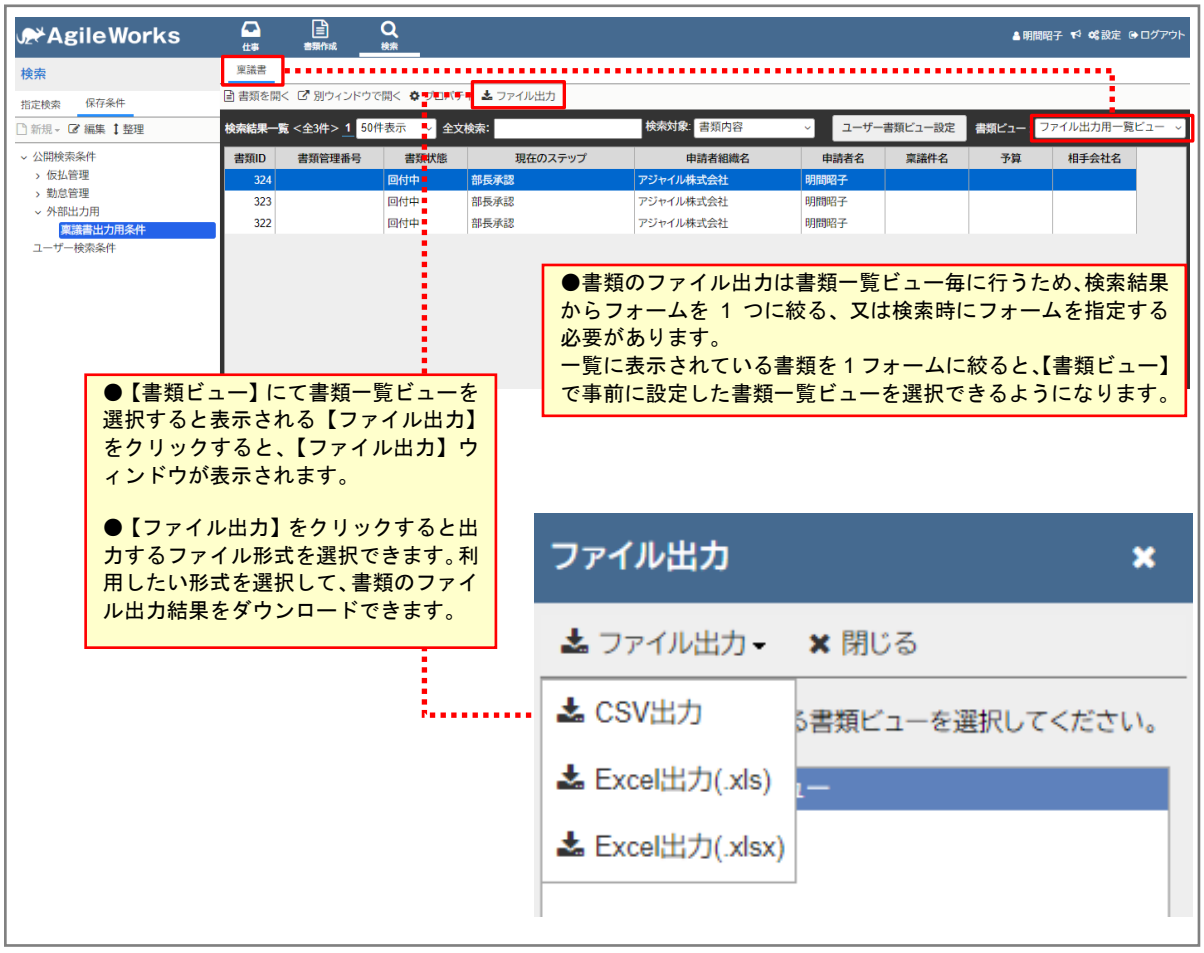
書類を検索し、検索結果をファイルに出力します。
※出力対象のフォームに書類一覧ビューが設定されている必要があります。
　詳細は「事前準備」を参照ください。

ファイル出力は、以下の流れで行います。

▼ファイル出力手順

No.	操作	備考
1	ログイン	出力したい書類を検索可能なユーザーでログインします。
2	書類を検索	ファイルに出力したい書類を検索します。
3	検索結果を対象のフォームに絞る	※手順 2 にてフォームを絞っている場合は必要ありません。
4	設定済みの書類ビューを選択	※手順 2 にて書類一覧ビューを指定している場合は必要ありません。
5	ファイルを出力	ファイル形式(csv/xls/xlsx)を指定してファイルをダウンロードします。

▼詳細検索、又は公開検索条件を利用して書類を検索した結果をファイルに出力します。



以上でサイトでの書類検索結果からのファイル出力は完了です。

3.2. スクリプトによるファイル出力

AgileWorks が提供するスクリプトを実行することで、ファイルを出力します。
スクリプトを実行することで以下の処理が行われます。

▼スクリプト実行時に行われる処理

No.	操作	備考
1	管理サイトログイン	管理サイトで書類を検索可能なユーザーでログインします。
2	書類を検索	外部公開条件を利用します。
3	検索結果を対象のフォームに絞る	外部公開条件にてフォームを絞っている場合は必要ありません。
4	設定済みの書類ビューを選択	外部公開条件にて書類一覧ビューを指定している場合は必要ありません。
5	ファイルを出力	ファイル形式(csv/xls/xlsx)を指定してファイルをダウンロードします。

上記の処理を行うため、事前に【書類の検索条件】と【書類ビュー】の設定が必要です。
各設定に関しては、「事前準備」を参照ください。

スクリプトの実行条件

AgileWorks が提供するスクリプトは AgileWorks に対して、アクセス可能なネットワークポート(80 番など)でネットワーク接続が可能である環境において実行することができます。
また、スクリプトを実行する環境に Java7 以上の JRE がインストールされている必要があります。

【スクリプトの取得】

サポートサイトより zip ファイルをダウンロードし、スクリプトを実行する環境に配置・展開してください。
zip ファイルを展開すると、 remote というディレクトリが生成されます。
→ c:¥apps¥aw_doc_export¥remote(展開後のディレクトリ) など

【スクリプトの構成】

remote ディレクトリ配下は以下の構成となっています。

remote 配下のディレクトリ	ファイル	備考
bin 配下	―	スクリプトの内部モジュール
bricklet 配下	―	Brickelt ジョブに利用するファイル ※書類ファイル出力では利用しない
bulk_apply 配下	―	一括申請ジョブに利用するファイル ※書類ファイル出力では利用しない
conf	remote_env.bat	設定ファイル
	remote_env.sh	
doc_export	doc-export.bat	【書類ファイル出力実行用スクリプト】 PC 上から書類ファイル出力を実行する際に利用します
	doc-export.sh	
	remote_cmd.bat	【実行スクリプト】 各スクリプトが内部で実行するスクリプト
	remote_cmd.sh	
org_import 配下	―	組織インポートに利用するファイル ※書類ファイル出力では利用しない
user_mst_import 配下	―	外部マスタインポートに利用するファイル ※書類ファイル出力では利用しない

書類ファイル出力では上記の【bin / conf / doc_export】3 つのディレクトリ配下を利用します。

▼接続するAgileWorksの設定

conf/remote_env.sh(bat)を実行環境に合わせてテキスト編集します。
▼remote_env.bat(Windows)の場合

```
rem  接続先 URL を指定して下さい
set AWURL=http://127.0.0.1/AgileWorks

rem  ログイン ID を指定して下さい
set USER=doc_export_user

rem  パスワードを指定して下さい
set PASS=********

・・・
```

●設定例

```
rem  接続先 URL を指定して下さい
set AWURL=https://atled.import/AgileWorks

rem  ログイン ID を指定して下さい
set USER=doc_export_user

rem  パスワードを指定して下さい
set PASS=doc_export_user
```

▼remote_env.sh(Linux)の場合

```
# 接続先サーバーを指定して下さい
AWURL=http://127.0.0.1/AgileWorks

# ログイン ID を指定して下さい
USER=doc_export_user

# パスワードを指定して下さい
PASS=********

・・・
```

【スクリプト内の編集】

設定値	説明
AWURL	接続先 AgileWorks の URL を指定します。
USER	実行ユーザーのログイン ID を指定します。 admin ユーザーを指定するか、または全コンテンツ・全業務カテゴリへの権限を持つ管理ロールを保持するユーザーを指定してください。
PASS	実行ユーザーのパスワードを指定します。

▼ファイル出力クリプトの実行
doc_export/doc-export.sh(bat)
に引数を渡して実行します。

【スクリプトに渡す引数】
スクリプト実行時は以下の引数を指定してください。

引数名	必須	説明
c	○	出力する書類を検索する外部公開条件のコードを指定します。
o	○	出力されるファイル名を指定します。
v	△(※1)	ファイル出力する項目を定義した書類一覧ビューのコードを指定します。
f	△(※2)	出力する書類のフォームコードを指定します。
t		以下のいずれかのファイル形式を指定します。 ・csv ・xls ・xlsx 指定しない場合、csv で出力されます。

※1：指定した外部公開条件に書類ビューが設定されていない場合に指定します。
※2：指定した外部公開条件にフォームが設定されていない場合に指定します。

【スクリプト実行方法（Windows）】
・　コマンドプロンプトを開きます。
・　環境変数（JAVA_HOME）を設定します

```
set JAVA_HOME=c:¥PROGRA~1¥JAVA¥jdk1.8.0_60
```

※　この例では、C:¥Program File¥JAVA に JRE をインストールした環境を前提としています。
　　実際の設定値はお使いのマシン環境に合わせてください。

・　実行ディレクトリへ移動します。

```
cd c:¥apps¥aw_doc_export¥remote¥doc_export
```

※　この例では、アップロードスクリプト一式を c:¥apps¥aw_doc_export に配置した環境を前提としているので、移動先ディレクトリはお使いのマシン環境に合わせてください。

・　ファイル出力を実行します。

```
doc-export.bat -c $検索条件コード  -o $ファイルパス  -v $一覧ビューコード  -f $フォームコード  -t $ファイル形式
```

【スクリプト実行方法（Linux）】

・　環境変数（JAVA_HOME）を設定します

```
export JAVA_HOME=/usr/local/jdk1.8.0_60
```

※　この例では、/usr/local に JRE をインストールした環境を前提としています。
　　実際の設定値はお使いのマシン環境に合わせてください。

・　実行ディレクトリへ移動します。

```
cd /home/aw_doc_export/remote/doc_export
```

※　この例では、アップロードスクリプト一式を/home/aw_doc_export に配置した環境を前提としているので、移動先ディレクトリはお使いのマシン環境に合わせてください。

・　以下のコマンドを実行し、コピーしたスクリプトファイルに実行権限を付与します。

```
chmod a+x doc-export.sh
chmod a+x remote_cmd.sh
```

・　ファイルアップロードを実行します。

```
./doc-export.sh -c $検索条件コード  -o $ファイルパス  -v $一覧ビューコード  -f $フォームコード  -t $ファイル形式
```

ファイル出力スクリプトの実行例

【Windows 環境：スクリプトを c:¥apps¥aw_doc_export¥remote に配置した場合】

▼正常に実行できた場合

```
c:¥apps¥aw_doc_export¥remote¥doc_export>doc-export.bat –c RINGISHO_EXP -o c:¥ringisho.csv
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
   <Status>SUCCEED</Status>
</Response>
c:¥apps¥aw_doc_export¥remote¥doc_export>
```

▼指定した外部公開条件に書類ビューが設定されていない、且つ書類ビューを指定していないため、エラーとなった場合

```
c:¥apps¥aw_doc_export¥remote¥doc_export> doc-export.bat –c RINGISHO_EXP -o c:¥ringisho.csv
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
   <Status>FAIL</Status>
   <ErrorCode>SVCDOC-W0002</ErrorCode>
   <HttpStatusCode>500</HttpStatusCode>
   <MessageText>SVCDOC-W0002:  書類ビューが指定されていません。</MessageText>
</Response>
c:¥apps¥aw_doc_export¥remote¥doc_export>
```

【Linux 環境：スクリプトを/home/aw_doc_export/remote に配置した場合】

▼正常に実行できた場合

```
[root@localhost doc_export]# doc-export.sh –c RINGISHO_EXP -o /aw_work/ringisho.csv
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
   <Status>SUCCEED</Status>
</Response>
[root@localhost doc_export]#
```

▼存在しない検索条件を指定し、エラーとなった場合

```
[root@localhost doc_export]# doc-export.sh –c RINGISHO_EXP -o /aw_work/ringisho.csv
<?xml version="1.0" ?>
<Response>
   <Status>FAIL</Status>
   <ErrorCode>SVCDOC-W0002</ErrorCode>
   <HttpStatusCode>500</HttpStatusCode>
   <MessageText>SVCDOC-W0002:  書類ビューが指定されていません。</MessageText>
</Response>
c:¥apps¥aw_doc_export¥remote¥doc_export>
```

ファイル出力スクリプトのステータスコード

ファイル出力スクリプトを実行した際に、結果として表示される主なステータスコードです。

コード	説明
SUCCESS	ファイル出力が完了しました。
FAIL	ファイル出力に失敗しました。

3.3.　自動出力ステップによるファイル出力

書類が自動出力ステップを通過したタイミングで、自動出力ステップに設定した書類ビューの結果をファイル出力します。
※自動出力ステップにファイル出力設定および書類一覧ビューが設定されている必要があります。
　詳細は「事前準備」を参照ください。

自動出力ステップからのファイル出力は、以下の流れで行います。

▼自動出力ステップからのファイル出力手順

No.	操作	備考
1	ログイン	出力したい書類を回付するユーザーでログインします。
2	書類を回付	書類を回付して、自動出力ステップを通過します。
3	ファイルを出力	自動出力ステップで設定された書類一覧ビューの結果がファイルに出力されます。

ファイル出力の制限事項

出力ファイルがすでに出力先に存在している場合は上書きとなります。